

令和7年度 第3回 教育に関する事務の点検・評価委員会

日時：令和7年12月25日（木）10時00分～

場所：豊島区役所本庁舎8階 教育委員会室

【次 第】

1 開 会

2 議 事

（1）評価対象事業のヒアリング及び質疑応答

① 「確かな学力」育成事業

② 日本語指導事業

3 閉 会

■ 資 料

資料1：事業分析シート【「確かな学力」育成事業】

資料2：事業分析シート【日本語指導事業】

令和7年度 教育に関する事務の点検 事業分析シート

事業名	「確かな学力」の育成事業	担当課	指導課
豊島区教育ビジョン2025	基本方針1.「知」「徳」「体」の教育内容の充実	1-①学びに向かう力の育成	P.36
豊島区教育ビジョン2019	基本方針2. 確かな学力の育成	基本施策1 学びの基礎・基本の徹底	P.36

1. 事業概要

根拠法令	学校教育法、教育基本法、学習指導要領 など	事業開始年度	-
事業の目的	変化の激しいこれからの社会を生きる子どもたちに必要とされる学ぶ意欲や、自ら課題を見付け主体的に学び、よりよく問題解決する資質・能力を育成できるよう、児童・生徒の基礎基本の定着や教員の授業力を向上を図る。		
事業の対象	区立小・中学校の児童、生徒		
事業内容	①各種調査の実施(全国学力・学習状況調査、豊島区学力調査・質問紙調査)、各種調査の分析と授業改善推進プランの作成 ②教員研修の実施(年次研修、授業力向上研修) ③秋田県能代市への教員派遣研修と指導資料「としまっ子の学び」の作成 ④小・中学校の補修支援(補充学習への支援:チューター、各種検定に向けた学習支援:トライアルスクール) チューター:放課後や長期休業中に講師を派遣 トライアルスクール:英検・漢定・数検の受験指導に対応する外部指導員を派遣 ⑤研究開発指定校における研究成果の普及		
外部委託の有無			

2. 事業実績

令和6年度実績	①各種調査を実施し、分析した結果を受けて作成した授業改善推進プランに基づき、各教員が授業改善に取り組んだ。授業改善の実施状況については、指導主事が全校を訪問し指導・助言を行っている。授業力に課題のあった教員については、継続して訪問し、指導・助言を行いながら授業力向上に取り組むようにした。 ②学力向上や授業改善をテーマとした研修を13本実施した。 ・若手教員育成研修、4年次研修、授業改善推進研修 ③秋田県能代市へ教員及び管理職を17名派遣し、能代市の学力向上に向けた取組について学んだり、市立小・中学校の視察をし、授業参観したり学校の取組を学んだりした。学んだことを区内全教員の授業力向上に活用するために、「としまっ子の学び vol.2」を作成した。作成した「としまっ子の学び vol.2」を、年次研修や指導課訪問の際に活用し指導・助言した。 ④チューターについては、小・中学校において延べ842.5時間実施した。トライアルスクールとして、中学生が延べ395人参加した。 ⑤R5・6年度の研究開発指定校である椎名町小学校、明豊中学校が研究発表を行い、区内の学校に研究の成果を広めた。 椎名町小学校:地域に誇りをもって主体的・協働的に学び、持続可能な未来社会を共に創造しようとする児童の育成 明豊中学校:小中連携による「児童・生徒が自ら実践力を向上し、成長につなげる学校づくり」に関する研究 その他、豊成小学校、要小学校、駒込中学校がR6・7年度の指定校							
活動指標	指標	目指す方向性	単位	4年度 (実績)	5年度 (実績)	6年度 (計画)	6年度 (実績)	7年度 (計画)
	① 学力向上、授業改善に向けた研修の実施	一維持する	回	14	17	13	13	14
	② ICTを活用した授業力向上に関する研修講座	増加させる	回	104	205	210	184	216
	③							
成果指標	指標	目指す方向性	単位	4年度 (実績)	5年度 (実績)	6年度 (計画)	6年度 (実績)	7年度 (計画)
	① 全国学力・学習状況調査 意識調査「主体的な学び」【%】	増加させる	%	小6 73.5 中3 77.3	小6 75.3 中3 79.7	小6 77.0 中3 80.0	小6 77.0 中3 74.7	小6 79.0 中3 81.0
	②							
	③							
成果	・学習指導及び授業改善に向けた教員研修においては、毎年必要とされる課題をテーマとし、テーマに即した研修の内容及び招聘する講師を決定している。令和6年度は、研修講師との事前の打合せを丁寧に行い、実態に合った研修を実施することで教員の授業力向上に取り組んだ。 ・「としまっ子の学び」を活用した研修を行ってきたことで、めあてとまとめの一体化を意識した授業へと改善が進んでいる。							

3. 事業費推移

単位 金額の項目:千円			5年度			6年度			7年度	
			予算	決算	執行率	予算	決算	執行率	予算	増減 (R6決算比)
事業費		A	85,808	74,593	86.9%	87,141	79,801	91.6%	84,150	4,349
財源内訳	国、都支出金	B								
	使用料・手数料									
	地方債・その他									
	一般財源	C=A-B	85,808	74,593	86.9%	87,141	79,801	91.6%	84,150	

4. 課題及び今後の方向性

課 題	・秋田県能代市への教員派遣研修で学んだことをまとめた指導資料「としまっ子の学び」を活用して、研修や学校訪問の際に指導したことで、めあてとまとめの一体化を意識する学校が増えた。次のフェーズとして、個別最適な学びと協働的な学びを意識した授業改善を進める必要がある。
課題への対応方針	・教員研修の内容を、「めあてとまとめの一体化」から「教師主導型の脱却」に切り替え、ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びとする。 ・研修では、個別最適な学びと協働的な学びを意識した授業を行っている教員の模範授業をモデルとし、具体的な授業スタイルを学ぶ機会とする。 ・指導課訪問における指導の視点を、個別最適な学びと協働的な学びとする。
次年度以降の方向性	・引き続き、教員研修のテーマを「個別最適な学びと協働的な学び」としたり、指導課訪問の指導の視点としたりすることで、教員の授業に対する意識を変える。 ・個別最適な学びと協働的な学びを生かした探究学習を進めている教員を研修の講師として招聘したり表彰したりして、教員の意欲の向上につなげる。

としまっ子の学び Vol.1

めあて/課題の設定

まとめと振り返りの実施

教師主導型からの脱却



教師主導型からの脱却

～子ども主体の授業～

<1単位時間の授業の流れ>

めあて/課題

→ 見通し

・ 自力解決

→ 学び合い

→ まとめ

→ 振り返り

めあて/課題の設定 ～身に付けさせたい力を明確にした授業～

めあて/課題

- ☐めあて/課題を意識させる。
- ☐子どもから引き出す。
- ☐子どもの言葉から設定する。
- ☐めあて/課題が自分事となるようにさせる。

そのために
→

子どもの関心を高めたり、
必要感をもたせたりする
ような導入を行う。

めあて

本時において何ができるようになったらよい
のかをはっきりさせるもの

課題

課題解決型の授業(主に算数・数学、理科、
社会)で、本時において解決すべきもの

見通し

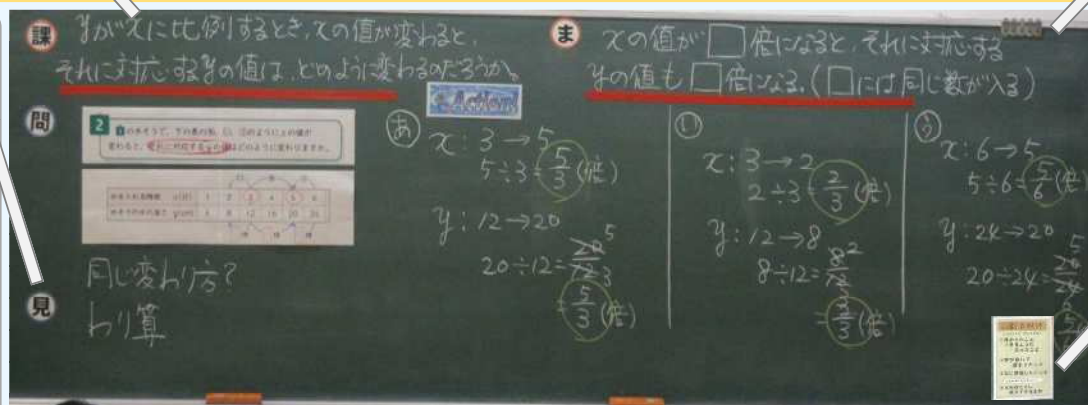
- ☐既習事項を確認する。
- ☐解決の方法のヒントを
与える。

自力解決

- ☐十分な時間を確保する。
- ☐全員に自分の考えをも
たせられるようにする。



<学習隊形:前向き(集中する時)>

板書の
仕方

- ☐1単位時間の学習の流れが分かるように記す。
- ☐子どもの考えや本時の学習のキーワードを記す。
- ☐めあて/課題とまとめを横並びにし、正対していることを視覚的に分かりやすく記す。

まとめと振り返りの実施

～何が身に付いたのかが分かる授業～

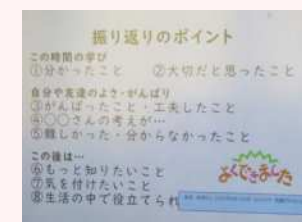
まとめ

- ☐子どもの言葉でまとめる。
- ☐黒板に記した子どもの考えやキーワード
から、まとめにつなげる。
- ☐めあて/課題とまとめは、文の書き出しを
同一にすると、正対していることが分かり
やすい。

振り返り

振り返りは授業の感想ではない

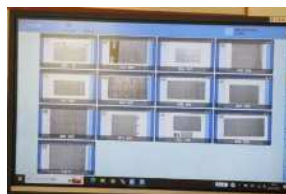
- ☐振り返りの視点をもつ。
- ☐本時のねらいに応じて、視点は子どもに選
ばせたり、教師が指定したりする。
- ☐振り返りの内容をもとに、次時への意欲付
けを行う。



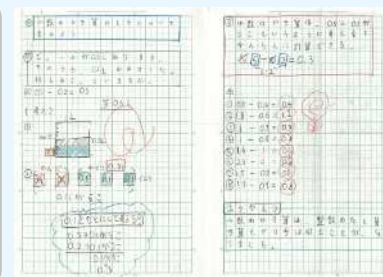
学び合い



<学習隊形:コの字型(話し合いの時)>



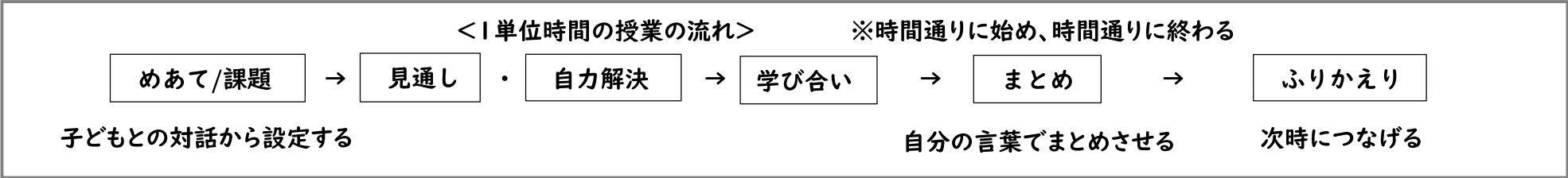
- ☐子どもの発言の復唱や説明をしない。
- ☐発言者以外の子どもに説明・補足させる。
- ☐子どもの発言をつなぐ。
- ☐教師がエラーモデルとなり、考えを深めさせる。
- ☐ICTを活用し、互いの考えを視覚的に示す。

ノート
の
使い方

- ☐見開きで使用する。
- ☐めあて/課題とまとめが横並びに
なるようにする。

としまっ子の学び Vol.2

項目 段階	めあて	まとめ	ふりかえり	教師主導型の脱却
1	子どもに示す	子どもに示す	視点を示す	個人や集団での活動時間を確保する
2	学習活動を明確にする	めあてに正対してまとめる	ふりかえりの視点を選ばせる	子どもの発言をつなげたり広げたりする
3	興味関心を高める導入を行う	まとめにつながるキーワードを子どもから引き出す	視点にあったふりかえりをさせる	めあてにつながる活動を子どもに選択させる
4	正対したまとめが見通せるように示す	キーワードをもとに子どもといっしょにまとめる	ふりかえりをもとに次時につなげる	めあての設定やまとめ等を子どもにさせる
5	子どもとの対話から設定する	身に付いた力が分かるように自分の言葉でまとめさせる		



令和6年度 学力調査等について

1 調査について

	豊島区学力調査	子供たちが輝くクラスづくりのための 質問紙調査 (i-check)
目 的	豊島区立小・中学校の児童・生徒の学力及び学習状況を把握するとともに、教員の指導方法の改善に資することで、一層の学力向上を図る。	児童・生徒及び教員との人間関係を分析し、把握することで校内での学級づくりやいじめの早期発見及び不登校の未然防止に役立てる。
対 象	小学校第3学年から中学校第3学年	
教 科	小3 : 国語、算数 小4 : 国語、算数、理科 小5～中1 : 国語、社会、算数、理科 中2・中3 : 国語、社会、数学、理科、英語	
実施日	令和6年4月24日(水)～5月31日(金)のうち、学校が指定した日	

2 区学力調査の結果【平均正答率(%) 区平均正答率・全国平均正答率】

() は全国との差

(1) 小学校

	学年	小学校3年	小学校4年	小学校5年	小学校6年
国語	区	76.3 (+3.5)	74.6 (+1.2)	71.0 (+6.1)	72.0 (+4.8)
	全国	72.8	73.4	64.9	67.2
社会	区			61.2 (+1.1)	63.4 (+0.6)
	全国			60.1	62.8
算数	区	80.7 (+2.7)	75.6 (+3.5)	68.5 (+4.5)	66.2 (+4.5)
	全国	78.0	72.1	64.0	61.7
理科	区		56.4 (+1.2)	61.0 (+0.3)	59.4 (−0.9)
	全国		55.2	60.7	60.3

(2) 中学校

	学年	中学校1年	中学校2年	中学校3年
国語	区	61.9 (+0.6)	66.3 (+1.2)	69.7 (+1.8)
	全国	61.3	65.1	67.9
社会	区	47.6 (−4.8)	50.5 (+0.5)	51.5 (−1.5)
	全国	52.4	50.0	53.0
数学	区	63.6 (−0.8)	59.2 (+4.5)	56.4 (+5.6)
	全国	64.4	54.7	50.8
理科	区	61.2 (−5.8)	54.0 (−2.0)	49.5 (−1.0)
	全国	67.0	56.0	50.5
英語	区		59.8 (+7.1)	56.5 (+5.6)
	全国		52.7	50.9

＊正答率
設問に対して
正答した児童・生徒の割合

(3) 課題となっている教科の観点別結果

①理科の結果

平均正答率 (%)

※全国と比較して、-0.1%~-1.1%

-2.1%

		小 4		小 5		小 6		中 1		中 2		中 3	
		区	全国	区	全国	区	全国	区	全国	区	全国	区	全国
観点	知識・技能	64.5	63	64.9	66.6	65.3	68.3	59.1	67	63	66.8	52.6	54.8
	思考・判断・表現	51.1	49.9	55	51.9	54.8	54.1	64.4	66.9	42.7	42.4	45.3	44.6
	態度	51.4	51.3	59.5	62.8	61.1	62.0	65.0	69.0	49.5	46.8	43.2	42.1

②社会の結果

平均正答率 (%)

※全国と比較して、-0.1%~-1.1%

-2.1%

		小 5		小 6		中 1		中 2		中 3	
		区	全国	区	全国	区	全国	区	全国	区	全国
観点	知識・技能	60.2	58.0	66.9	65.7	50.0	55.6	54.3	54.4	50.2	53.8
	思考・判断・表現	63.2	64.2	57.8	58.4	40.4	42.9	45.6	44.2	52.8	52.0
	態度	60.3	55.9	59.8	59.6	38.3	39.4	42.2	39.7	43.3	43.1

(4) 学校訪問及び区学力調査の結果から

- ・国語、算数（数学）、英語についてはおおむねできている。
- ・理科・社会においては、基礎及び知識・理解において全国平均を下回っている項目が多い。
→一斉授業が多く、子どもたちの主体的な学びに結び付いていない。課題に対して解決策を考えたり、自分の言葉でまとめをしたりするなど、子どもたちが学んだ知識を活用して課題解決することで知識を確実なものにする必要がある。

3 i-check の結果【肯定回答率 (%)】

(1) 学習に関する設問について（全国より肯定的な回答が少なかった設問）

設問	小 6		中 3	
	区	全国	区	全国
自分なりにがんばったことを、先生が認めてくれて、うれしかったことがありますか。	79.6	82.6	84.7	80.9
先生はクラスみんなのことを、ほめたり、はげましたりしてくれますか。	93.2	94.2	94.8	94.2
友だちの意見を聞いて新しいことに気づいたり、自分の考えが深められたりして、勉強って面白いと思うことがありますか。	64.8	66.5	70.8	65.9
クラス全体やグループ、友だち同士で話し合いをするとき、自分の意見を積極的に発言していますか。	62.7	63.0	63.7	63.1
クラスの多くの人や仲のいい友だちと意見がちがっても、自分が正しいと思ったことは、それを主張することができますか。	63.3	63.5	66.6	64.0
あなたは、学校生活の中で発言をするとき、他の人と同じ意見だった場合でも、自分なりに考えて発言していますか。	49.6	51.1	58.8	57.1

学校の授業では、友だちと教え合う時間がありますか。	89.1	91.0	91.7	89.6
学校の授業では、となり同士やグループで話し合ったり、討論したりすることがありますか。	89.4	89.5	94.9	89.6
グループで話し合う授業は楽しいですか。	84.3	86.0	87.9	85.4

(2) i-check の結果から

- ・話し合いや学び合い（協働的な学び）のよさを実感できていない児童がいる。
- ・授業において、自己肯定感・自己有用感が十分に育っていない。

4 授業改善推進プランについて

(1) 目的

各種調査の結果や日頃の学習の様子から課題を見だし、目指す子ども像の実現に向け、各教科の課題解決や、主体的・対話的で深い学びの視点から一単位時間の授業づくりの具体的な手だてを考え、実践につなげる。

(2) 内容

①授業改善推進プランの全体像

参考資料「としまっ子の学び」を踏まえ、教員が全員理解し、つかうことで授業改善を推進することを目的に令和5年度から作成）→（3）

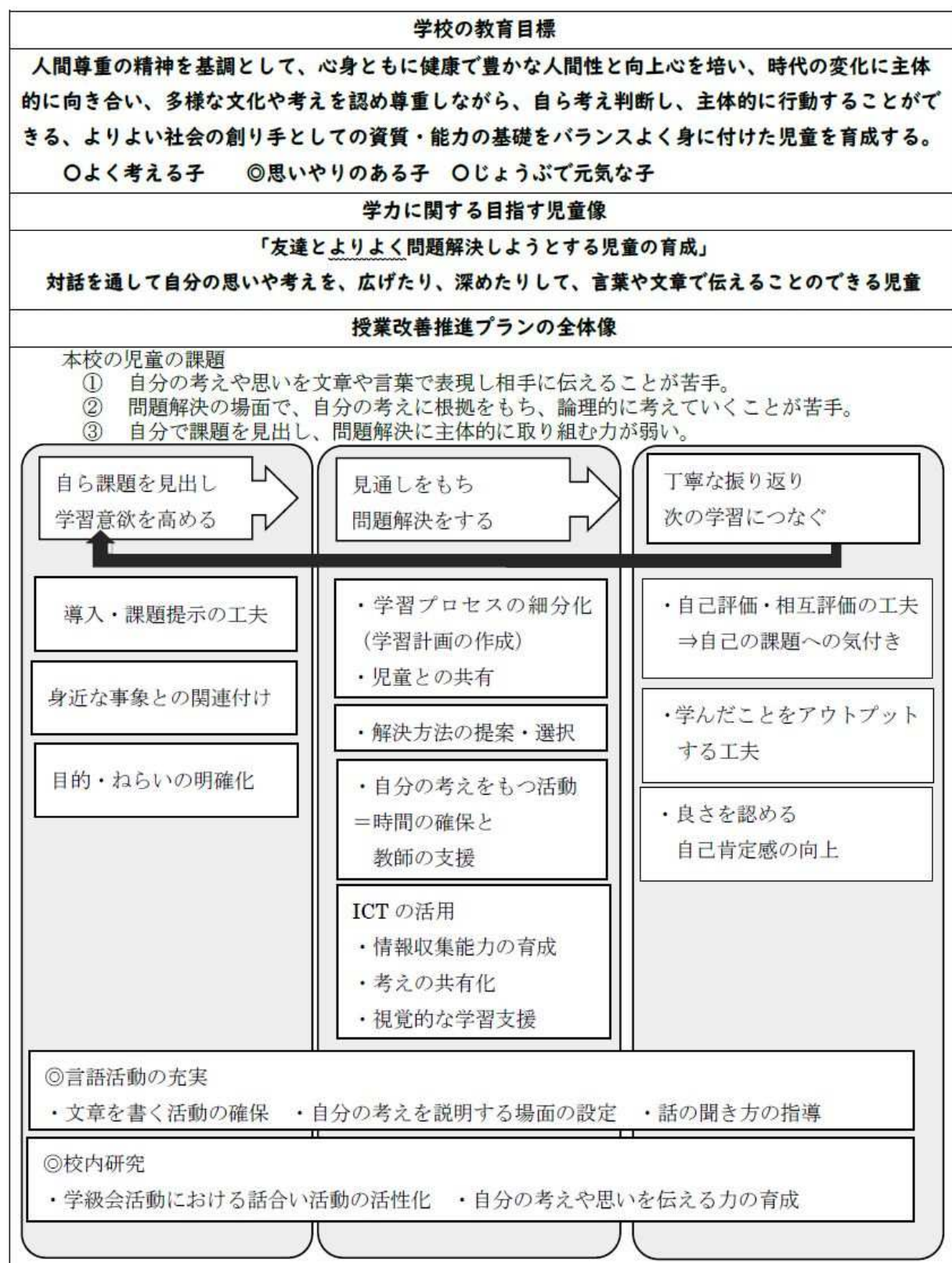
②目指す子ども像を基にした各教科での育てたい資質・能力

③現在の状況

④改善に向けた取組

} → (4)

(3) 授業改善推進プランの全体像例（J 小学校）



(4) 各教科等

①授業づくりについて

	目指す児童・生徒像	授業改善推進プランの全体像
A 小学校	・勉強がすきな児童 ・生き生きと学びに向かい、思いを表現できる児童	○45分授業の充実 ・各教科における「としまっ子の学び」の流れを意識した授業展開 (1) めあて／課題の設定 身に付けさせたい力を明確にする。 (2) まとめ・振り返りの実施 何が身に付いたのかが分かる。 (3) 教師主導からの脱却 子供の発言をつなぐ。
B 小学校	・確かな学力と豊かな心を身に付けた児童 ・課題に対して自分の考えをもち、すすんで解決できる児童	○確かな学力の定着と豊かな個性を伸長する授業づくりの実現 ～個別最適な学び・協働的な学びの充実～ ・自分で自分の学習を調整し、課題解決を目指す。 「自分で決める」→「やってみる」→「振り返る」
C 中学校	・学ぶことに興味・関心をもち、主体的に学ぼうとする生徒 ・他者の考えと比較し、話し合うことで、違いや共通点を見だし、自らの取組をよりよいものにしようとする生徒 ・授業をとおして学んだことを、論理的に整理、定着させ、さらなる探究活動を行おうとする生徒 ・発信力の育成を通して、自信をもって自己表現しようとする生徒	○自己表現力を高める教育活動の実現～発信力の育成を通して～ ・伝える力(話す力・書く力等の表現力)を育成し、他者からの評価を受容する中で発信の場を設定し、成功体験を積みながら自信を育む。 (1) 発表の場を設け、自己表現の練習を行う。 (2) 成功体験を積み上げることにより自信をつける。 (3) 他者からの評価を受けることにより自己肯定感や自己有用感を高める。 ・教員が授業を振り返り、改善を行うため、「学期ごとの振り返りシート」を作成し、活用する。

②理科について

	目指す子ども像を基にした 各教科での育てたい資質・能力	現在の状況	改善に向けた取組
D 小学校	・体験活動を重視し、問題解決のための実験や観察をすることで児童が主体的に考え、学習を深める力	・問題を把握して正しく結果を記録したり主体的に考察したりすることが難しい	・結果の記録の仕方を表や図で表すようにしたり、結果と考察の違いを明確にしたりする。
E 小学校	・自然の事物・現象の性質や働きについての理解を深めるとともに、観察・実験などをとおして、問題解決する力	・実験技術が十分に身に付いていない。	・タブレットで実験の様子を撮影し、正確に実験ができているかどうか振り返る。 ・「問題→予想(仮説)→手だて→実験→考察→結論」の課題解決の流れを定着させるため、板書を全校で統一する。
F 中学校	・知識としての学習ではなく、現象の原理を理解しようとする姿勢	・授業で習った内容をその時間中は理解しているが、知識の定着ができていない。	・繰り返し学習を通して、知識の定着を図る。また、単元末プリントなども活用し、アウトプットする場面も多くとり、生徒の実態を把握していく。

③社会について

	目指す子ども像を基にした 各教科での育てたい資質・能力	現在の状況	改善に向けた取組
G 小学校	・ 資料等から適切に事実を捉え、それを基にして話し合うことをとおして、多様な見方・考え方を働かせながら学習を進める力	・ 表やグラフなどの資料を正しく読み取ったりまとめたりすることに課題がある児童が多い。	・ 資料を読み取る視点を明確にし、読み取り方を身に付けさせる。他教科での学習とつなげながら資料活用の経験値を増やしていく。
H 小学校	・ 社会的な見方・考え方を働かせ、多角的に考察する力	・ 自力解決に適した資料の選択、必要な情報の読み取りに課題がある。 ・ 答えを先に追う傾向が強く、知識と社会的事象に結び付けて考える力が十分でない。	・ 学習問題作りに向けて資料を吟味し、提示方法を工夫する。 ・ 自分の考えがどの資料で根拠づけられるのかを意識させる問いかけを行い、資料活用能力を高める。
I 中学校	・ 自ら学び考える力、批判的思考と問題解決能力、他者との協働力	・ 活発に他者と協働して自力解決する力が備わってきている生徒も増えてきたが、対話を通した学びに苦手意識がある生徒も一定数いる。学力の二極化傾向が見られる。	・ 問題解決的な学習課題を設定して、他者と協働しながら学習する場面を設定して、批判的思考と問題解決能力を育成していく。

(4) 授業改善推進プランを生かす取組

指導課	学校
○10/17 教務主任研修 ・ 教務主任による授業改善推進プランを実効性のあるものにするための企画を検討する。 ○指導主事による学校訪問 ・ 授業視察をし、授業改善について管理職への指導・助言する。	○授業改善推進プランに基づく授業を実施する。 ○校内研究をととした授業改善を継続して行う。 ○授業改善推進プランの振り返りを行い、次年度の教育課程編成に生かす。

5 今後の取組

- ・ 教師主導の講義型授業から、児童・生徒が主体的に学習を進める授業への転換を進めていく
- ・ 児童・生徒が学習内容に関心を持ち、見通しをもって学習活動に取り組む中で、知識を活用しながら思考・判断・表現を繰り返す授業展開にする。
- ・ めあてや見通しに基づいて振り返りを行い、学んだこと・身に付けたことを自覚する等をおして、児童・生徒の学力を高めていく。

→そのために、

- ・ 教育委員会では授業改善のための参考資料として作成した「としまっ子の学び」を指導課訪問、各種年次研修等で活用し、授業改善を進めていく。
- ・ 各校が作成した授業改善推進プランが実効的なものになるように指導・助言をする。



令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査の概要

(1) 調査日

令和6年4月18日(木)

(2) 調査内容

- ①教科に関する調査 小学校…国語、算数 中学校…国語、数学
②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

(3) 調査対象児童・生徒

小学校第6学年・中学校第3学年の全児童・生徒(知的固定学級在籍児童・生徒を除く)

2 調査結果

(1) 教科に関する調査〔平均正答率(%) 全国、東京都ともに公立学校〕

【小学校(6年生)】

		区	都	全国	都比較	全国比較
国語	R6	73	70	67.7	+3 ポイント	+5.3 ポイント
	R5	72	69	67.2	+3 ポイント	+4.8 ポイント
算数	R6	71	68	63.6	+3 ポイント	+7.4 ポイント
	R5	70	67	62.5	+3 ポイント	+7.5 ポイント

【中学校(3年生)】

		区	都	全国	都比較	全国比較
国語	R6	63	61	58.1	+2 ポイント	+4.9 ポイント
	R5	72	72	69.8	±0 ポイント	+2.2 ポイント
数学	R6	57	57	52.5	±0 ポイント	+4.5 ポイント
	R5	54	54	51.0	±0 ポイント	+3.0 ポイント

小・中学校ともに全国の正答率を上回っている。
小学校では、国語、算数ともに東京都の平均正答率を3ポイント上回っている。
中学校では、国語で東京都の平均正答率を2ポイント上回り、数学では同等である。数学「図形」「関数」の問題では、東京都の平均正答率を0.3ポイント下回っていた。
東京都や全国の調査結果と比較して、豊島区の児童・生徒には、概ね国語と算数・数学の学力が身に付いていると考えられる。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

①児童・生徒質問紙調査〔肯定的回答率(%) 全国、東京都ともに公立学校〕

Q.5年生までに(小学校)、1、2年生のときに(中学校)受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

【小学校(6年生)】

区	都	全国	都比較	全国比較
77.0	81.8	81.9	-4.8 ポイント	-4.9 ポイント

【中学校(3年生)】

区	都	全国	都比較	全国比較
74.7	80.6	80.3	-5.9 ポイント	-5.6 ポイント

Q.5年生までに(小学校)、1、2年生のときに(中学校)受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。

【小学校(6年生)】

区	都	全国	都比較	全国比較
78.4	80.1	79.6	-1.7 ポイント	-1.2 ポイント

【中学校(3年生)】

区	都	全国	都比較	全国比較
72.5	76.2	75.4	-3.7 ポイント	-2.9 ポイント

②学校質問紙調査

Q.調査対象学年の児童・生徒は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか。

【小学校】

区	都	全国	都比較	全国比較
77.2	70.9	61.2	+6.3 ポイント	+16.0 ポイント

【中学校】

区	都	全国	都比較	全国比較
50.0	63.3	55.3	-13.3 ポイント	-5.3 ポイント

Q. 調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか。

【小学校】

区	都	全国	都比較	全国比較
86.4	88	87.1	-1.6 ポイント	-0.7 ポイント

【中学校】

区	都	全国	都比較	全国比較
100	83.7	86.6	+16.3 ポイント	+13.4 ポイント

授業における主体的な学びについての児童・生徒の肯定的な回答率は、東京都、全国と比べると低い。

小学校では、児童が学習課題や学習計画について見通しをもって学ぶ授業改善が進められているが、学んだことを生かして自分の考えをまとめる活動については、さらに充実させることが必要であると考えられる。

中学校では、学校は探究的な学習過程を見通した指導方法の改善に努めているものの、生徒目線では、生徒主体の授業作りが十分に行われていないことが考えられる。

3 学校への指導

本区の児童・生徒は、国語と算数・数学の学力が概ね身に付いていると考えられる。基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、思考力・判断力・表現力を育成する授業の工夫を継続するとともに、児童・生徒の主体的な学びを充実させていくことで、児童・生徒の資質・能力をより伸ばすことができると考える。

そのため、令和5年度に作成した授業改善のための参考資料「としまっ子の学び」を活用し、各種研修や学校訪問の際に、めあてとまとめを一体化した授業作り及び教師主導の授業から脱却した子ども主体の授業の実現に向けて、指導・助言を継続して行っていく。

令和7年度 教育に関する事務の点検 事業分析シート

事業名	日本語指導事業	担当課	教育センター
豊島区教育ビジョン2025	基本方針3. 多様な子どもに対する支援の充実	3-③多文化共生の意識醸成と日本語指導体制の充実	P.56
豊島区教育ビジョン2019	基本方針5 一人一人を大切にす教育の推進	基本方針4 多文化共生の推進	P.61

1. 事業概要

根拠法令	①日本語初期指導事業実施要綱 ②日本語指導教室運営要綱	事業開始年度	-
事業の目的	日本語初期指導(通訳派遣)や日本語指導教室で日本語指導を行い、学校(園)生活への適応を目指す。		
事業の対象	①日本語に理解が十分でない園児・児童・生徒(来日概ね6か月以内)とその保護者 ②日本語指導が必要な、日本語学級及び日本語指導教育員が配置されていない学校に在籍する来日間もない児童・生徒(来日概ね6か月以内)		
事業内容	①園長・校長からの要請を受け、学校(園)生活に適応できるよう、在籍する区立幼稚園及び小中学校に指導協力者(通訳)を派遣する。 派遣時間の上限:子ども1人につき32時間、保護者へは2時間 ②校長からの要請を受け、学校生活へ適応するための日本語指導、日本文化に対する理解を図る。 令和6年度より小学生に対しては在籍校を指導員が巡回して指導を実施。中学生は教育センターへ通級して指導を受ける。		
外部委託の有無	無		

2. 事業実績

[illegible]

3. 事業費推移

単位 金額の項目:千円			5年度			6年度			7年度	
			予算	決算	執行率	予算	決算	執行率	予算	増減 (R6決算比)
事業費		A	5,415	3,005	55.5%	5,415	4,620	85.3%	4,998	378
財源内訳	国、都支出金	B	0	0	0	0	0	0	0	0
	使用料・手数料		0	0	0	0	0	0	0	0
	地方債・その他		0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	C=A-B	5,415	3,005	55.5%	5,415	4,620	85.3%	4,998	-

4. 課題及び今後の方向性

課 題	①生活言語(サバイバル日本語)がほぼ習得できたのちの、学習言語への理解が必要である。 ②日本語の理解が十分でない子どもの転入人数は予測が困難であり、時には日本語指導教室へ入級できるまでの待機日数が相当かかるケースが発生していた。
課題への対応方針	①授業の中で必要な学習上の言語に対しての指導を行うため、「学習支援事業」として日本語指導教室修了者へ通訳協力者が授業に付き添う。 ②日本語指導教室の指導員を1名増員し、入級までの待機期間を短縮する。また、原則マンツーマン指導ではあるが、入級者が急増した場合に備え、同時に2人の子どもの指導できるような指導内容や環境を整える。
次年度以降の方向性	今後も日本語の理解が十分でない子どもの転入は増加を見込まれているため、求められる支援に応えられる体制を維持していく。

【7】日本語指導

1. 事業概要

日本語指導が必要な児童生徒に対し、学校生活へ適応するための日本語指導を行うとともに日本文化に対する理解を図っていく。

2. 活動内容（担当：5名）

(1) 日本語指導

①概要

区立小・中学校に在籍する、初来日後6か月以内の外国人及び帰国児童生徒に対して、学校生活にできるだけ早く適応できるように、個に応じた日本語の基本的な「読む・書く・聞く・話す」の4技能の育成に努める。

②実績

ア 指導状況、指導力向上について

- ・9か月以内で効率的に日本語が習得できるように教材と指導計画を見直し、毎週2～4時間の日本語指導を行った。
- ・指導力向上を目指し、学習院大学教授を講師とし、「子どもの日本語学習を促す方法」をテーマに研修を行った。豊島区内の日本語指導担当教員と共に学んだ。

イ 区立小学校への巡回指導について

- ・保護者の送迎負担軽減のため、区立小学校への巡回指導を始めた。通級する必要のあった令和5年度の小学生に対する指導人数は延べ21人だったところ、令和6年度は延べ12校に巡回指導に行き、延べ35人に指導を実施。およそ2倍の実績となった。日本語教室の修了者はうち25人であった。

ウ バーチャル・ラーニング・プラットフォーム（VLP）事業について

- ・小学校3年生以上の日本語教室修了者のフォローアップのため、「エリンが挑戦！にほんごできます」を教材として、VLPに取り組んだ。アカウント配布は16名に行い、14回実施し、延べ参加人数は19名であった。

エ 各学校との連携について

- ・各学校からの報告や東京都や豊島区の日本語教育の情報共有を図るため、日々の連絡を密にしてきた。「日本語教室打合せ記録」に随時記入し、指導員全員で素早く確実に情報を共有した。
- ・小学校とは、毎回の巡回指導時に、担任や副校長に日本語指導教室の様子を伝え、その時に普段の小学校生活について知らせていただき、中学校とは、毎月の通級状況報告書により、通級生徒の在籍校に日本語指導教室での様子を伝え、担任や副校長から当該生徒の普段の中学校生活について知らせていただき、その後の児童生徒一人一人のよりよい日本語指導に役立てた。
- ・4月から3月までに45人の入級者面接を行った。入級の可否については、学校からの入級相談依頼書の内容とともに、児童生徒の日本語

の習得状況や保護者の不安感等、多方面から検討した後、全指導員で入級判断や入級後の指導計画を考えた。

オ 学習院大学との連携について

- ・ 9月から11月の3か月間、教育実習生2名を受け入れ、各々10回の実習を設定した。終了後の実習生による記録には、日本語学校との指導法の違いを理解し、本教室の指導計画に沿って充実した指導実践を行うことができたとあり、生徒への日本語指導の楽しさを実感した様子も伺えた。

(2) 日本文化理解

①概要

学校生活の基礎となる日本文化への理解を深める。

②実績

- ・七夕、お月見、新年のめあて等の指導を通して、日本の伝統文化や季節の行事に関心が持てるように支援した。

(3) 安全指導

①概要

交通安全の意識や地震・火災発生時の行動を計画的に指導していく。

②実績

- ・春秋の交通安全指導では、交通標識の理解とともに基本的な交通ルールの順守と安全意識の向上に努めた。地震火災発生時の避難訓練も行った。
- ・日々、児童生徒の健康観察に努めるとともに、感染予防のための換気や手洗いも習慣化してきた。

3. 今後に向けて

(1) 指導法の改善について

- ・入級者急増に対応するため、各指導員が児童生徒を同時に2人指導できるような指導内容や環境を整えた。

(2) 今年度からの新規事業等について

- ・DLA(文部科学省開発の子どもの日本語能力測定ツール)やVLP(バーチャル・ラーニング・プラットフォーム事業)についての学習会を適宜開催し、全指導員で最新の情報を共有した。
- ・区立小学校への日本語教室の巡回指導の取り組みについて効果検証し、一人一人の子どもの困り感を少しでも早く解決できるように努めた。

4. 統計

図1. 出身国別在籍者数（令和6年度）

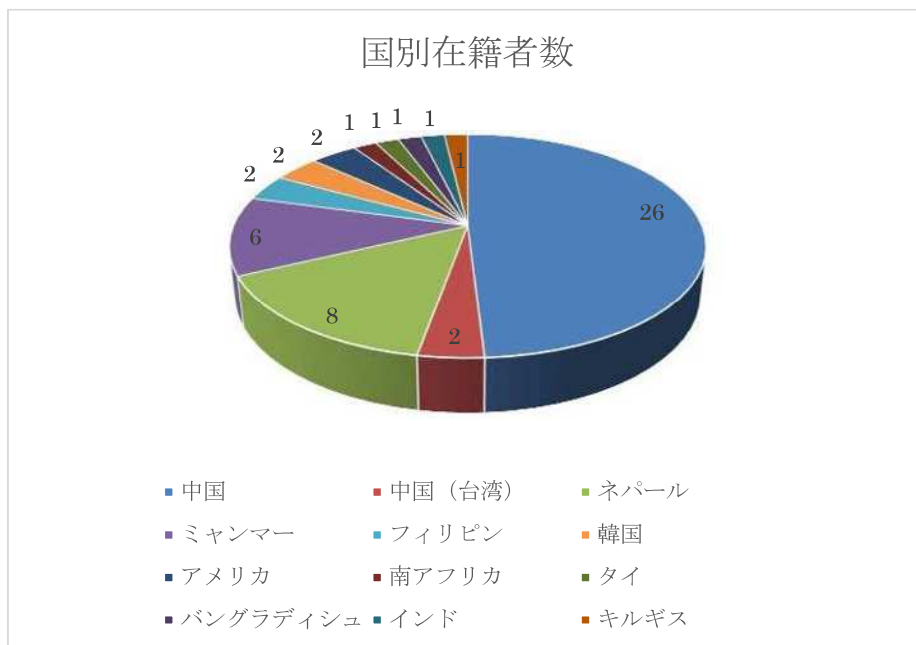


図2. 延べ在籍者数（令和4年度～令和6年度）

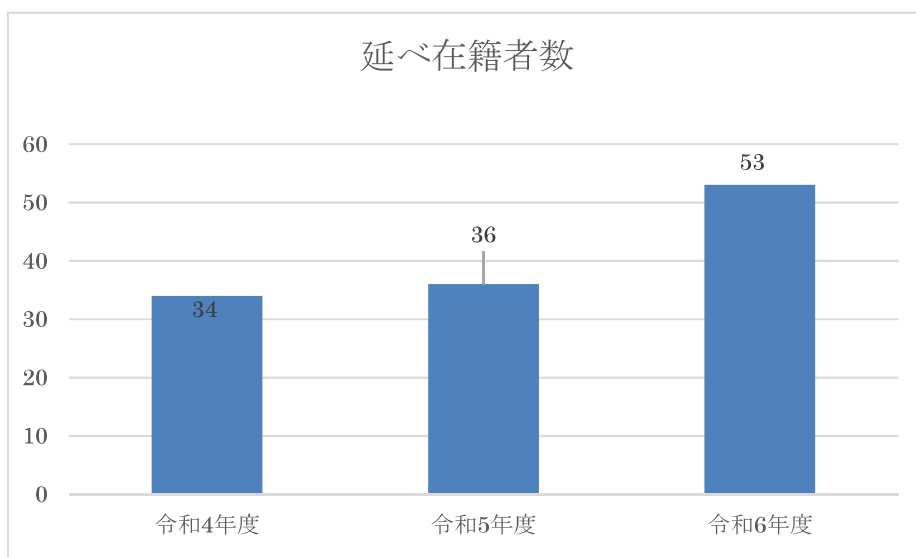


図 3 . 延べ修了者数（令和 4 年度～令和 6 年度）

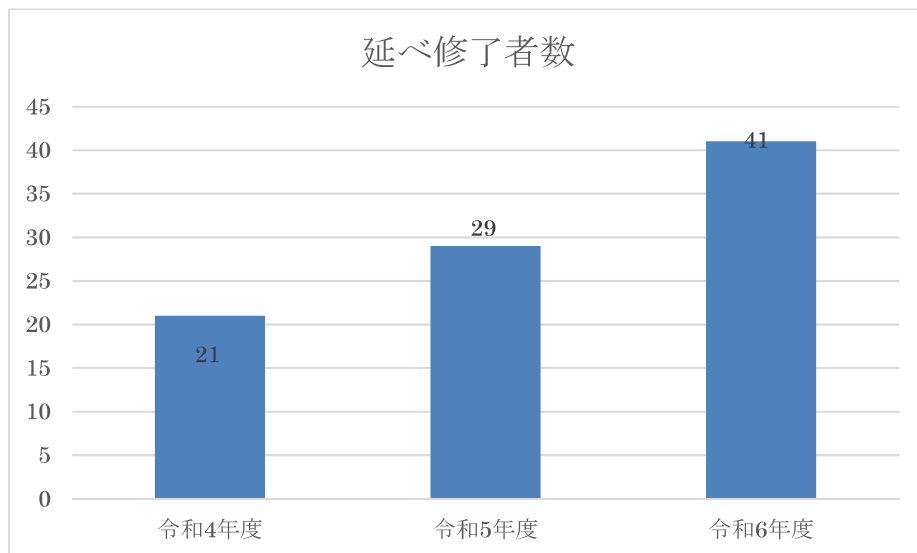
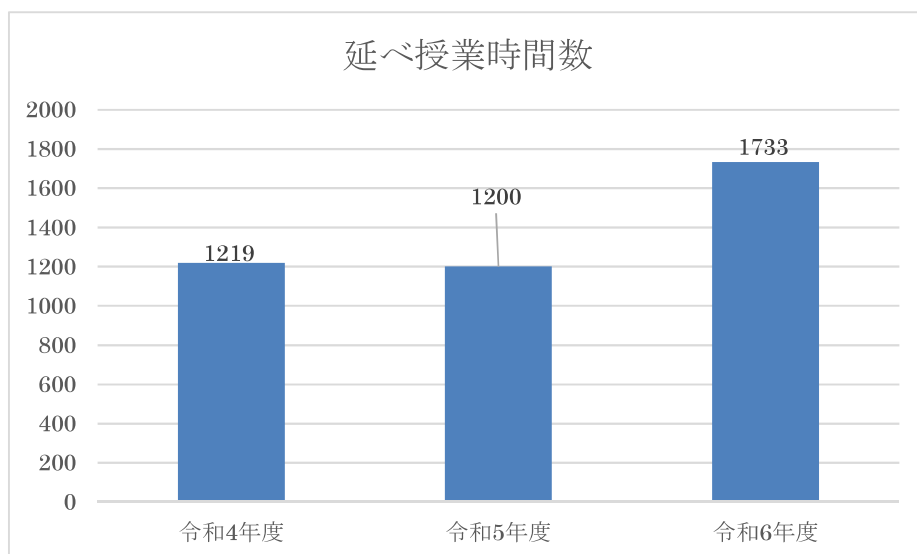


図 4 . 延べ授業時間数（令和 4 年度～令和 6 年度）



【8】日本語初期指導（通訳）

1. 事業概要

日本語の理解が不十分な園児児童生徒が、転入学当初の学校生活への不安に対処し、学校生活に適応させることを目的に、学校からの要請に応じて日本語指導（通訳）を行う。

2. 活動内容（担当：1名・指導協力登録者45名1団体）

（1）日本語初期指導

①概要

区立小・中学校・幼稚園に在籍する、初来日後6カ月以内の帰国及び外国人園児児童生徒に、転入学当初の学校生活への不安に対処し、学校生活に適応できるよう対象児童・生徒につき34時間を上限に指導協力者を派遣した。

②実績

- ・転入学当初の学校生活に必要な事柄や学習指導・生活指導を行う上で必要な事柄について通訳を行なった。
- ・保護者会や保護者面談等での保護者通訳を行なった。
- ・英語や中国語以外の言語も多く通訳者の派遣をした。
- ・他グループと連携を密にし、就学相談面接等でも通訳を行なった。

（2）翻訳

①概要

区立小・中学校の保護者宛て通知や資料の中国語及び英語の翻訳を行なった。

②実績

- ・入学のしおり等の翻訳版を作成し、各校が確認できるようにした。

3. 今後に向けて

（1）日本語初期指導

英語・中国語の指導協力者は多くいるが、指導協力者が少ない言語（ネパール語・ミャンマー語・ロシア語等）について、指導協力者の確保に努める必要がある。

（2）翻訳

引き続き、要望に沿って翻訳を行う。

4. 年次統計

図 1 対象人数の推移（人）

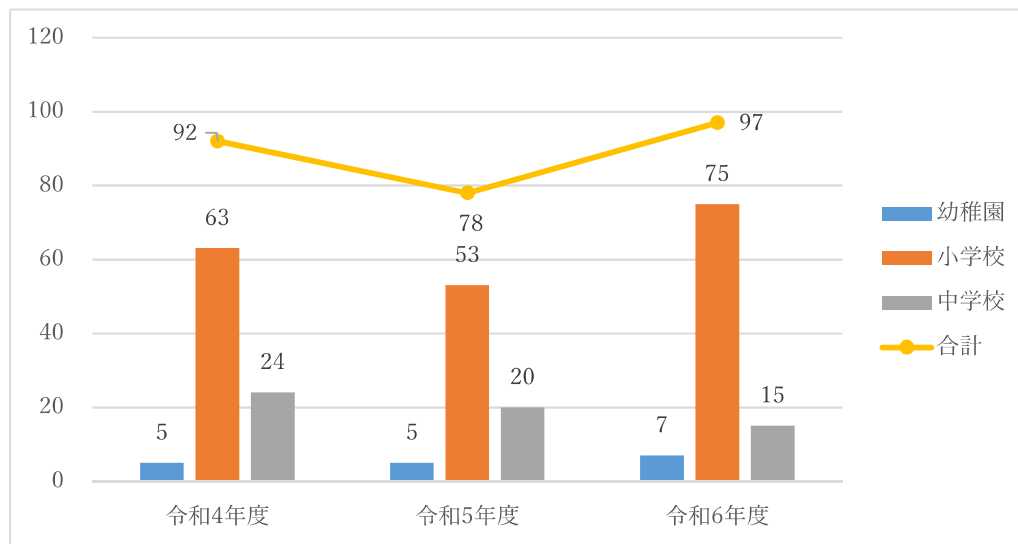
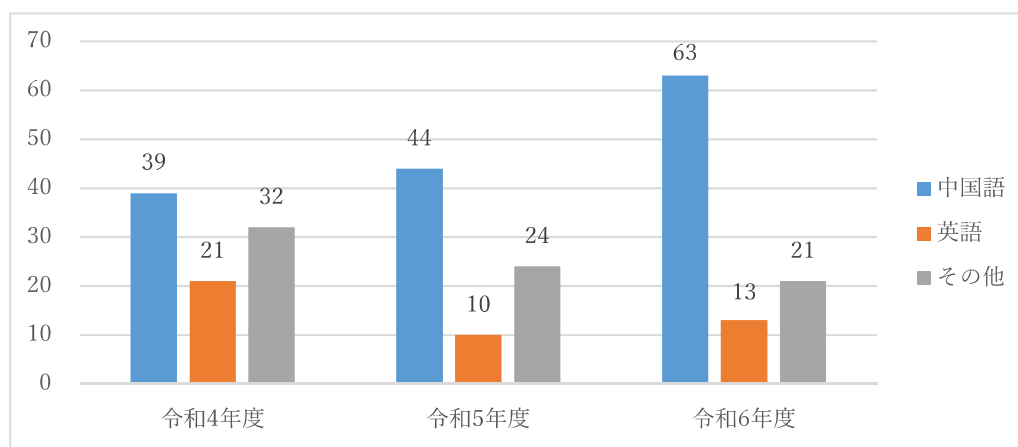


図 2 言語別対象人数の推移（人）



※令和 6 年度のその他 21 人の内訳は、ネパール語(13 人)、ベトナム語 (3 人)、ミャンマー語 (2 人)、韓国語 (1 人)、ロシア語(1 人)、タイ語 (1 人)。

図3 派遣時間の言語割合（％）

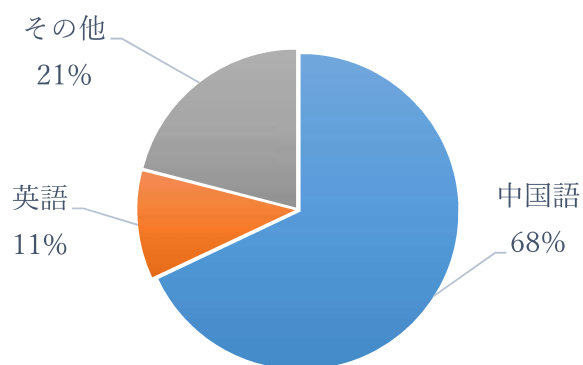
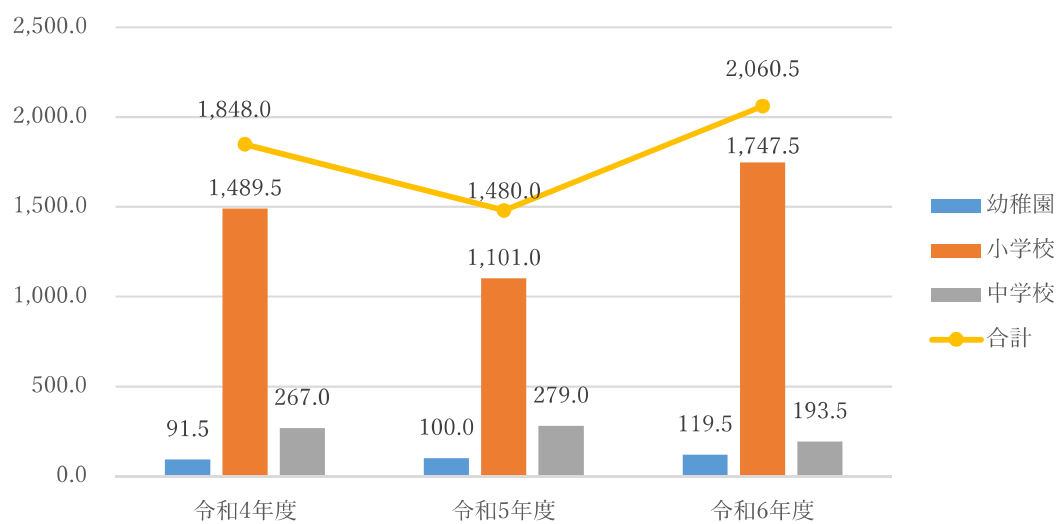


図4 派遣時間の推移（時間）





日本語学習支援について

R 7.11
新規開始！

目的

日本語の理解が十分でない児童・生徒の、日本語能力のさらなる向上と、学習言語の習得の手助けをすることにより、児童・生徒の学習を支援する。

対象

教育センターの日本語指導教室を修了しおおよそ6か月以内の、日本語に課題があり学習の支援が必要な児童・生徒

内容

日本語学習支援指導協力者を学校に派遣し、授業へ付き添い児童・生徒の学習上の言語課題に対し個別指導を行う。

【派遣例】①本人が日本語を難しいと感じている科目の授業に付き添い、学習の理解に必要な用語等を説明
②定期考査等のテストの通訳 など

期間

週2コマ/35 週(最長1年)
原則協力者との間で取り決めた曜日の連続した2時限に配置される。



【参考】日本語初期指導(通訳派遣)事業と日本語学習支援事業の違いについて

	日本語初期指導（通訳派遣）事業	日本語学習支援事業
支援内容	通訳	学習支援
支援目的	サバイバル日本語の習得 (学校生活への適応)	学習言語の習得(学習するうえで分からない言葉を学ぶ)
支援対象	日本に来日して6か月以内	教育センターの日本語指導教室を修了後6か月以内
派遣可能時間	授業のほか、給食時間やホームルームなど、学校生活全般	授業時間のみ
活用方法	授業等に付き添い言語全般を通訳テストの通訳	授業に付き添い、理解できない言葉について教える
最大派遣時間	34 時間(保護者対応2 時間含む)	70 時間(基本週2 コマ 35 週)
報償費	1 時間 3,000 円	授業1 コマ 3,000 円



問い合わせ先：教育センター子どもサポートグループ
03-3590-1251